ふるさと自慢（わが町わが村）

真心こもるうちわの里。

─鹿本郡鹿本町

県の北部に位置する鹿本町は、菊とメロンと米が盛んに作られている農業の町。特に菊とメロンは町の特産物として有名です。

また、345年の歴史を誇る「来民うちわ」は今でも多くの人々に愛用され、うちわの日本三大産地の一つとして広く知られています。

文化財も多く、御霊塚（ごりょうづか）古墳や、古墳を守る武人をかたどった石人、県出身ただ一人の内閣総理大臣・清浦奎吾伯生誕の地、放浪歌人・宗不旱（そうふかん）の歌碑の故郷の家など、見どころがいっぱいです。

スポーツが盛んな町でもあり、各種の大会が活発に行われています。昨年から新たに、清浦奎吾伯にちなみ、清浦顕彰鹿本マラソン大会が始まりました。これには県内外から大勢の参加者が集まり、今後も更に盛んになりそうです。

こんなにすてきな鹿本町。交通の便も良い所です。一度訪れてみませんか。

お問い合わせは、鹿本町役場（☎〇九六八四六─三一一一）へ。

この新聞は、鹿本町立来民小学校6年生のみなさんに作っていただきました。

産物

☆町の紹介

鹿本町と言えば、山一つない平たん地帯で、町の面積は、わずか十八・二六平方キロです。人口は、九千四百十一人で、人口密度の多い町です。河川は、東から西へ、菊池川が、流れ支川として、内田川、迫間川、倉志川、千田川、木野川の五つの川が菊池川に合流していて、つゆの時期には水害に、あいやすい地帯です。

▽主な産物（メロン・菊・などです）

メロンの種類は（プリンス・きんしょう・しんじゅ・アムス・アールス・アスコット・こくさ・しらゆき・パパイアン・アンデス・エリザベス・エロクイーン）それがとどです

（年間にメロンは（四十二万四千五百ケース）

★メロンは、約何ヵ月でできるか。

（12月の中じゅんからたねをまき六月までしゅうかくをやめる）

★鹿本町で作られたメロンは、どこに出荷されるか。

（東京・大阪・名ごやを中心に）

★メロン一年間の生産高は、

（四十億円）

オ菊の種類は、いくつ！（70種類）

★菊一年間の生産高は、（五億三千三百万円）

★作られた菊は、どこに、（北海道・とうほくのせんだい・東京）

オ菊作りは、いつごろから始まったか。

（昭和四十七年ごろから）

文化財

御霊塚古墳（横穴古墳）

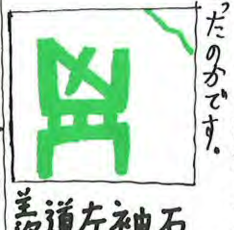
御霊塚古墳は、鹿本町役場から、東へ約二キロメートル行ったところにある津袋から東にのびた低い台地の突端に造られている。

竹林におおわれて二基の円墳がならび、その西側のものが御霊かくれ穴と呼ばれ、装飾古墳である。墳丘は、直径十二メートル、高さ二・三メートルあり、内部主体は南々西の方向に開口した横穴式石室である。

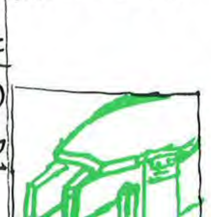
石室は、巨石を用にてきずいてあり、玄室は奥に一枚東西壁に各二枚の凝灰岩をもって築き、その上は、大きい石を持ち送り式に積み、天井に巨石を置いている。

装飾は、赤色と白色の顔料でかかれており、奥壁の右下部に、小さな靫や鞆、東壁に鞆などがあるがあまりはっきりしていない。羨道部左袖石にも赤色顔料がみとめられる。この古墳は菊地川の支流、内田川木野川流いきで現在知られている、ゆい一の装飾古墳である

感想 ぼくたちは、この古墳を見て思ったことは、とてもでかい石を、どうやってはこんできたのか、また、なんであんな林の中に造ったのかです。



羨道左袖石



御霊塚古墳

清浦奎吾伯生誕の地

県下で唯一人の内閣総理大臣をつとめた清浦伯の生誕の地（明照寺）

清浦伯略歴

- ○嘉永三年二月一日来民町に生る。
- ○明治二四年（四二歳）貴族院議員
- ○大正十三年（七五歳）内閣総理大臣
- ○昭和三年（七九歳）伯爵
- ●昭和十七年（九三歳）熱海米寿庵に於て逝去された。

うちわづくり

鹿本町には、京都・丸亀とともに日本三大産地の一つとして名をなした来民うちわがある

西暦一六〇〇年頃、訪れた四国丸亀の旅の僧が一宿のお礼にうちわの製法を伝えたのが最初と伝えられている。竹の原材料に恵まれていたこともあって江戸時代の中頃は台所用の「しぶうちわ」として商家の宣伝用にと各地から愛用されその名を高めた

現在はせん風機やルームクーラーの普及で製造も少なくなり栗川さんの家で作られているだけである

来民小では昔ながらのうちわづくりを学ぼうと創意活動の時間に全校でうちわづくりの歴史を調べて発表したりつくり方を表したり「うちわ太鼓」をたたいたり、うちわづくりを行っている

かきのしぶで作られる昔ながらのしぶうちわも味わい深いものがある。

自慢できる祭り（初市）

○初市は明治10年ごろ始まりふだん買えない物をまとめて買うことのできる祭りです。

それから物々交かんからお金で買うようになりました。

初市と言う名は、むかしからのなごりです。

こうして初市はむかしから、うけつがれてきました。

3月ごろ

ワイ
ガヤ
ワイ
ガヤ
ガヤ

地ぞう祭り

二丁目地ぞうの由来

江戸時代第十一代将軍家斉の文政九年正月二十四日山鹿郡新町一・二・三各丁の住民の総意により創建された地ぞう堂である

○地ぞう祭りは昭和五十二年ごろから復活して始まった。

○地ぞう祭りがあるようになったのは江戸時代に新屋しきで火災で家が全部やけたので地ぞうがたてられた

スポーツ

★鹿本町には、どんなスポーツがあるか？

・野球　・バレーボール　・ソフト　・ビーチバレー

◎その他のスポーツ。

・ゲイトボール　・タッキュー　・じゅうどう　・けんどう

・空手。

★今までの成績。

鹿本町は、だいたい1〜3位内です。

郡市体育祭で行われる。

★いつごろからさかんになったか。

・以前からじょじょにさかんになった。

・ビーチバレーは、五十四年ごろから。

★来民小学校では？

・来民小では毎朝、全校体育・があり、はだしで走っています。

七夕祭というのは、（自分の願いがかなうように）（病気をしないように）と商店街の人たちが行った行事です。

だいたいかざりは40こぐらいならび、わしを使い手作りで作ります。期間は一ヵ月〜二ヵ月ぐらいかかります。作る費用は、五万円ぐらいです。かざりが一番きれいだった年は、五十六年です。かざりの長さは、四・五メートルあり、花は一このわくに、二百以上あります。

七夕祭の日は、とってもにぎやかです。

招こん祭

招こん祭は明治十年西南の役死没者のいれい祭として明治十二年の四月十七・十八・十九の三日間から始まりました。

↑はっぴすがた